



## 手術室や集中治療室、さまざまな部署で医療スタッフを足元からサポート。

### TOPIC 01 足に馴染んでくれて負担も少なく助かっています。

九州で先進医療の中核をなす福岡大学病院では、さまざまな部署でアシックスメディカルシューズを採用いただいています。それぞれの医療現場での着用感をお聞きしました。看護師であり助産師の城戸さんは、「いつも新しいシューズを履くと馴染むまで違和感を感じていましたが、アシックスメディカルシューズではそのようなことはなく、足にフィットしてくれました。そして仕事終わりの足への負担が少なく感じられるのはうれしいですね」。また、看護部長の中川さんも「看護師は基本的に立ち仕事が多く足に負担がかかるのですが、アシックスメディカルシューズは軽くて足への負担が少ないとスタッフの間で評判です」とお話しくださいました。

### TOPIC 02 軽くて動きやすいシューズなのできつい姿勢での看護も快適に行えます。

「直接介助で長時間同じ姿勢をとることが多い」と言われるのはSICUの看護師、平良さん。「腰や下半身に負担がかかりやすいのですが、アシックスメディカルシューズは軽くて動きやすく、介助も快適に行えてとても助かります」とのことでした。看護といっても部署によって身体への負担はさまざま。メディカルシューズも多用途に対応しなければなりません。心臓血管外科の看護師、石橋さんは、「ムレや締めつけ感が少なく長時間履いても足への負担が少ないと感じています。なので仕事のパフォーマンスを落とすことなく働けますね」と機能性についても高評価をいただきました。

### TOPIC 03 教育現場や緊急時でも動きやすく、足元をしっかりサポートしてくれます。

看護管理室の主任看護師、井野さんは新人看護師の教育を担当しておられます。アシックスメディカルシューズは新人教育にもお役に立っているのでしょうか。「適度なフィット感があってグリップ力も強く、体を動かす研修の際にとても動きやすいと感じました。医療現場では血液や体液、注射針などが足元に落ちてくるのですが、このシューズは足の甲を保護してくれ、汚れも簡単に拭き取ることができるので満足しています」というお声をいただきました。この他こちらの病院では、救命救急センターのドクターカー（FMRC）のスタッフにアシックスのワーキングシューズを採用いただいており、さまざまな部署でスタッフの皆様を足元からサポートしています。



### 患者様もスタッフもハッピーになれる病院でありたい。

当院は高度急性期を担う特定機能病院として、安全で質の高い医療・看護を提供することを使命としています。私たちは患者様中心の医療を提供する中で、とすると頑張りすぎてしまう傾向がありますが、自己犠牲のもとに成り立つ看護では長続きしません。患者様を笑顔にするには、私たち働くスタッフも笑顔で居ることが大切です。看護師は、心と身体が病んだ人に寄り添う感情労働の部分も大きいので、伸び伸びとその人らしく高いモチベーションで仕事ができる環境にすることが私の役目だと考えています。患者様もスタッフもハッピーになれるそんな環境を整えていきたいです。

副院長・看護部長 中川朋子さん



〒814-0180  
福岡市城南区七隈7-45-1  
<https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>